

## 生物資源科学研究科（博士後期課程）研究テーマ

### 応用生物科学講座

研究グループ	氏 名	研究テーマ
微生物機能	教授 福島 淳 ※令和6年3月退職	緑膿菌などが生産する小粒子である膜小胞の性質とその利用に関する研究 環境に生息する細菌とバクテリオファージに関する研究 昆虫と微生物の共生に関する基礎研究
	准教授 春日 和	放線菌におけるセルロース系バイオマス分解系の解明、およびセルロース系バイオマスを有効利用して抗生物質生産に応用する研究 微生物におけるD-アミノ酸の機能解析およびその応用研究
	准教授 村口 元	担子菌のモデル生物であるウシグソヒトヨタケやシイタケを実験材料とし、担子菌の菌糸成長・子実体形成・代謝に関する分子機構の解明とその応用を目指した研究
動物機能	教授 村田 純	癌細胞の運動調節機構、特に運動抑制の細胞内情報伝達機構に関する分子生物学的研究と、細胞運動抑制に重要な分子の調節による癌転移抑制に関する研究
	教授 穂坂 正博	動物の神経伝達・ホルモン分泌といった情報伝達機能を分子生物学的・細胞生物学的手法で解析する研究
	教授 小林 正之	哺乳動物の発生学：マウス初期胚から樹立できる幹細胞群（ES細胞など）をもちいた、胎仔・胎盤・iPS細胞の形成を担う新たな分子基盤に関する研究
植物機能	教授 水野 幸一	植物由来の生理活性化合物の生合成機構に関する酵素化学・遺伝子工学的研究
	准教授 王 敬銘	植物ホルモン生合成機能を調節する生理活性物質の合成と作用機構解析研究
	准教授 常盤野哲生	植物由来の生理活性化合物の有機合成研究および分子の構造解析
	准教授 尾崎 紀昭	植物におけるバイオミネラル化の分子機構解明 地域の未利用バイオマスを活用した機能性材料の開発
食品醸造	教授 陳 介余	食品の品質特性の科学的解明および貯蔵に伴う品質低下の要因解明 食品の安全・安心および品質向上をめざした食品素材の迅速品質計測技術の開発
	教授 中沢 伸重	白神こだま酵母の長寿メカニズムの解析 白神こだま酵母より分離した冷凍耐性株の機能解析
	准教授 石川 匡子	食品の嗜好性ならびに加工適正に与える食塩の影響に関する研究 天然素材との相乗効果を利用した塩味を強く感じさせる新規調味塩の開発
	准教授 張 菡	食品の美味しさに寄与する成分因子の解明および高品質食品の開発に関する研究 穀物類・油脂類の成分組成特性の解析および品質評価指標の構築

注1) 出願にあたっては志願研究グループの担当教員にお問い合わせください。

注2) 授業科目は原則として秋田キャンパスで開講されます。論文指導は指導教員の所属キャンパスで行います。

## 生物生産科学講座

研究グループ	氏 名	研究テーマ
植物生産基礎	教 授 渡邊 肇	直播栽培を基軸としたイネの省力・低コスト、環境保全型栽培 作物の収量と品質向上に関する生理・生態的研究 イネの環境応答に関するメカニズムの解明と品種育成・栽培技術への 応用
	教 授 小川 敦史	浸透圧ストレスに対する作物根系機能発現に関する形態学的、生理学 的、分子生物学的研究 環境制御を利用した高付加価値・機能性野菜の栽培方法の確立
	教 授 藤 晋一	農作物に発生する菌類・ウイルス病の実用的な診断法の開発 分子マーカーを利用した発生生態の解明 化学合成農薬に依存しない防除法の開発
	准教授 頼 泰樹	有害元素を吸収しない水稻の開発と原因遺伝子解析 イオンビーム照射によるダイズの有害元素低吸収系統の作出と遺伝子 解析 有機質肥料施用による土壌へのアミノ酸供給と作物による直接吸収
植物遺伝・育種	教 授 赤木 宏守	イネの低温適応および重金属蓄積の分子機構の解明 DNA マーカー選抜とピラミディングによるイネ育種法の開発
植物生理	教 授 鈴木 英治	原始的な光合成微生物（シアノバクテリア）から陸上植物への、貯蔵 多糖生産代謝能力の進化機構 光合成微生物のバイオマスの利用に関する技術開発
	教 授 藤田 直子	澱粉の構造や性質が変化した変異体米の作出およびその実用化 澱粉生合成メカニズムの解明
分子シグナル制御	教 授 田母神 繁	生物活性物質の単離・合成、および、活性物質の作用発現メカニズム に関する有機化学的研究
	准教授 阿部 誠	植物を食べる昆虫と植物との相互関係の化学的手法による解明 昆虫類を用いた生態毒性試験法の開発
植物資源創成システム	教 授 小峰 正史	栽培施設での環境調節・制御による生物生産の効率化研究 採算性のある植物工場実現に向けた、システムならびに新規栽培作物 の開発研究
	准教授 原 光二郎	植物・地衣類由来の有用物質・タンパク質の生産に関する遺伝子工学 的研究

注1) 出願にあたっては志願研究グループの担当教員にお問い合わせください。

注2) 授業科目は原則として秋田キャンパスで開講されます。論文指導は指導教員の所属キャンパスで行います。

生物環境科学講座

研究グループ	氏名	研究テーマ
陸域生物圏	教授 佐藤 孝	マメ科・根粒菌共生窒素固定を有効利用した低投入・低環境負荷農業の確立
	教授 蒔田 明史 ※令和5年3月退職	ササの開花習性とクローナル特性の進化の探求 環境教育を基とした人と自然との関係性に関する研究
	教授 星崎 和彦	ビッグデータを利用した森林の動態や物質循環の解析 樹木の成長と開花結実における気候変動の影響抽出 統計モデルを利用した動物の個体数や種子散布パターンの解析
	准教授 井上 誠	温室効果ガスの観測手法の開発 気候変動が農作物生産に及ぼす影響に関する研究 異常気象・気象災害の実態把握とメカニズムの解明
	准教授 木口 倫	環境・生物・農産物中の微量化学物質の動態研究 微量化学物質の新しい迅速・精密分析法および観測法の開発
環境管理修復	教授 高橋 正 ※令和5年3月退職	森林地帯の土壌生成と土壌劣化モニタリング 未利用資源を利用した環境修復
	教授 宮田 直幸	生物利用による下廃水の水質浄化、資源回収技術の開発 生態工学的手法による八郎湖環境の修復保全に関する研究
	准教授 石川 祐一	地域の生物資源を利用した環境修復技術の開発 重金属汚染土壌・塩性土壌など問題土壌の環境修復に関する研究
	准教授 早川 敦	流域スケールの生元素の生物地球化学循環とその最適化に関する研究 生態系の水質浄化機能とその広域評価・修復に関する研究
地域計画	教授 長濱健一郎	地域資源の利活用と主体に関する研究 農業構造の変動と地域資源・環境保全に関する研究
	教授 谷口 吉光 ※令和6年3月退職	持続可能な社会への転換を可能にする政策・技術・市民活動に関する研究 八郎潟・八郎湖の持続可能な保全と活用に関する研究
基礎生命科学	准教授 小西 智一	トランスクリプトミクスとゲノミクスのバイオインフォマティクス研究 リポタンパク質の測定方法 機能性食品の作用機作 パラメトリック統計学の応用

注1) 出願にあたっては志願研究グループの担当教員にお問い合わせください。

注2) 授業科目は原則として秋田キャンパスで開講されます。論文指導は指導教員の所属キャンパスで行います。

## アグリビジネス学講座

研究グループ	氏 名	研究テーマ
アグリテクノロジー	教 授 吉田 康德	園芸作物の生理生態的特性を活用した生産システムの開発に関する研究 植物成長調整物質を活用した生産技術の開発 園芸作物の組織形態学的研究
	准教授 横尾 正樹	受精卵移植を活用した効率的な家畜生産技術の構築と実用化のための研究開発 受精卵体外培養技術に関する農工融合研究
ルーラルエンジニアリング	教 授 増本 隆夫	農作物の洪水リスク評価法の開発と保険ビジネスへの展開 トンレサップ湖の消長に関わる水田主体流域管理技術の開発と農村インフラ輸出への展開
	准教授 近藤 正	農業流域における水環境保全に関する研究 水田汚濁負荷の抑制および、水田の水質浄化機能評価・増強に関する研究 水田地域の生物多様性保全に関する研究
フィールド農学	准教授 保田謙太郎	水稲の環境保全型栽培技術の研究 雑草の種生態および種内地理的変異の解明

注1) 出願にあたっては志願研究グループの担当教員にお問い合わせください。

注2) 授業科目は原則として秋田キャンパスで開講されます。論文指導は指導教員の所属キャンパスで行います。

## 木質科学講座

研究グループ	研究グループ	研究テーマ
木質科学	教授 山内 繁 ※令和6年3月退職	新エネルギーとしての木質バイオマス利用 木炭の吸着機構解明と吸着剤としての利用法開発 環境科学的見地に立った木材中の異物分析
	教授 高田 克彦	スギ等の森林資源の遺伝解析 樹木の成長・材質の変動と環境応答 森林資源の効率的な利活用に向けた管理手法の開発
	教授 栗本 康司	化学加工法を用いた木質資源の有効利用 出土木材など木質文化財の保存処理
	教授 山内 秀文	木材・木質材料の合理的加工術の探究及びその材料合理性を生かした 機能性木質材料の開発
	准教授 渡辺 千明	民家の工法と生活文化 地域資源を活用した安心・安全のまちづくり
	准教授 岡崎 泰男	木造住宅の耐震性能向上 木質構造接合部・木質複合材料の開発 実大材破壊機構解明
	准教授 澁谷 栄	バイオマスの利用技術 森林系及び木質系廃棄物の有効活用
	准教授 川井 安生	木材中の水分動態の解明と産業応用 新エネルギーを利用した木材乾燥システムの開発 木材・木質材料と音響
	准教授 足立 幸司	可撓化やバネ化など、木質系新素材の創製 木材・木質材料の材料特性を活かした家具・内装材の開発
	准教授 野田 龍	非住宅木製建造物の強度・耐久性の評価 クマ・イノシシ等の野生動物への忌避工法の開発 地域材利用による温暖化緩和効果および経済波及効果の評価

注1) 出願にあたっては志願研究グループの担当教員に問い合わせてください。

注2) 授業科目は原則として秋田キャンパスで開講されます。論文指導は指導教員の所属キャンパスで行います。

令和3年10月20日改訂